

林大だより



第 67 号 平成 26 年 3 月 14 日

長野県林業大学校翌協会



1 学 年 樹木学実習 (上松町赤沢自然休養林)



2 学 年 樹木医学実習 (木祖村)



雪灯りの散歩路 (木曾町)

卒業に当たって

翌松会 会長 米山 正勝



不安と期待を持ちつつ我が子を送り出してから早二年、卒業を迎え期待以上に成長を遂げた姿を見て嬉しく思う。ご父兄の皆様も多いことと思います。

これも林大教職員の皆様や教授の皆様の指導と生活を共にした学生の皆さんのお蔭と御礼申し上げます。

卒業生の皆さんは、全寮制の林大生活を送るなかで良き先輩や仲間たちに恵まれ、集団生活のルールや協調性を学ぶと共に校外研修や実習では林業の知識を学び、インターシップや地域行事・伝統行事への参加によって地域との繋がりがや社会的厳しさを学んだと思います。同じ志を持つ仲間が集まり二年間同じ屋根の下で暮らし、自我自制・協調性を学ぶ良い機会が大きな刺激となり人間形成に繋がつ

たと思います。四月からは社会人となり新たな生活が始まります。今後、仕事や暮らしのなかで壁に当たり悩むことも多々あるかと思いますが、林大の友は生涯の友であり、良き理解者です。悩み等を相談することで、きつと良いアドバイスをもらえることと思います。

今年の卒業生の七割が県外出身者でしたが、林大の力りキョラムを学ぶなかで、その多くの学生が長野県内への就職が内定していると聞き、大変嬉しく思いました。これも、林大の教育方針である「全人教育」の精神を基本に林学を学ぶだけでなく、木曾地域の自然のなかで暮らし、伝統行事やイベントに積極的に参加し、地域住民との触れ合いを大切にされる林大の人材育成から、信州で暮らしたいという思いになっていったのでしよう。

最後に、翌松会の副会長、会長というお役目をいただき二年間が経ちました。事務局

の先生並びに会員の皆様の温かいお心遣いのおかげで、無事幕を引くことが出来ました。役員を務めさせていただくなかで、学生たちの様子を拝見したり、学生の進路に真剣に取り組む林大の姿勢に深

く感銘しました。林大教職員・講師の皆様に感謝申し上げますと共に、今後も「全人教育」の理念の下、伝統ある林業大学から素晴らしい人材が育成されることを願っています。

林大から巣立ちゆく君たちへ

長野県林業大学 校長 田島 裕志



寒さ厳しい木曾の地も時折春の気配を感じるようになってきた。雪煙たなびく駒ヶ岳の稜線から朝遅く顔を出していた太陽も、一日と登る時間が早くなり、黒川の流れも心なしか緩んできたような気がする。構内にある桜の冬芽はまだ固くどじているが、校舎の陽だまりには何やら小さく可憐な花が見受けられる。

二年前に、北は岩手県から南は大分県まで全国各地からここ木曾の地に集った二年生諸君が、三回目の春の訪れと

ともに卒業の時を迎えようとしている。この二年間は、身の濃いかけがえのない日々であったことと思う。今一人ひとりに問いかけてみたい。林大で何を学び、木曾の地で何を想ったか。同じ釜の飯を食べた寮生活から何を心に刻んだか。外部講師の皆さんやオーストリア研修で出会った人々の熱い言葉に心を奮い立たせたか。インターンシップ

でお世話になった林業現場の先輩諸氏から何を学び、何を持ち帰ったか。寮母さんや舎監さんとの日常的な触れ合い、毎日の朝の体操、朝礼スピーチから学ぶことはなかったか。このような林大で過ごした日々の出来事一つ一つが、思い出として過去に過ぎ

去るのではなく、君たちの人生と共に歩みつづけ、寄り添い、ときには支えとなつてほしいと切に思う。

君たちは人生の多くの可能性の中から、森と木そして山村に関わる道を選んだ。そこには、喧騒と日々目まぐるしく変化する都会とは異なつた空間があり時間が流れている。時には、仕事が生んだくなることもあるかもしれない。特に最初の数か月、数年間はずうだ。そんな時、自然界や森林に、そしてそこに関わる人々の暮らしに魅力を感じ、喜びを発見していけるかは、君たち自身に懸かっているとと思う。そして、仕事にやりがいを見出し充実した日々を過ごすためには、自らのテーマを設定していくことが大切だと思う。問題を解決する力は無論必要だが、テーマを設定する能力も重要だ。そして一つ一つの発想や行動を主体的に行つていくことが大切になる。テーマの実現に向けて懸命に取り組むことで成長し、人生の様々な困難を乗り越えていく力も養われていくのではないか、ということ

を最近とみに思う。春は、別れの季節であり、

出会いの季節でもある。卒業する二年生はもちろんだが、一年生も新たに後輩を迎え、林大の伝統を引き継ぎ高めていくという役割が待っている。裏山にこぶしの花が咲

林業の社会人になった頃

中部森林管理局 局長 鈴木 信哉



学生時代林業を勉強したが、就職してみても教えられたこと、学んだことを列挙してみよう。

東北、北海道育ちの私の最初の勤務地は九州だった。山に調査に行くが、私は野帳マシで、調査する人は樹高と胸高直径を言うだけである。樹種は見てわかるだろうということだったが、スギ・ヒノキはわかるが、広葉樹は全くわからない。東北、北海道と全く違って常緑広葉樹だった。日本は広いと感じつつ、毎日樹種名を覚えるのに懸命で

き、新緑が芽生え、木曾駒の残雪が輝き、新入生を迎え、林大の一年がまた始まるようにしている。そして、社会へ踏み出す全ての若人の春がもうすぐ始まるうとしている。

あつた。あわせて、丸太になつてからの樹種名は全く覚え方が違う。葉や枝ぶり、樹皮だけではわからないのである。

また、別の日には山の蓄積の調査に行く。先輩からいきなり「この山はha当たり何mあるか？」と聞かれ、「測つて見なくてはわからない」と答えたら、一目でわかるようにならんと一人前ではないと言われた。その時は、「何だ」と思ったが、経験を経るうち、その通りだと感じた。次に、架線設計をやれと指示を受けたが、全くどうしていいかわからなかったが、そういうえば、学生時代授業でやった記憶を思い出し、実家から当時の教科書を送つてもらった。読んでみると、こん

なことだったのかと初めてわかり、対応した。授業でやっていたという記憶だけでも大丈夫だ。教科書は捨てない方がいいと身にしみた。

所変わつて、京都の役場へ。原木市場でその日の目玉商品だけ見て帰ろうとすると「全部見ないと木材の価格動向はわからない」と社長に言われ、一日市場でセリに付き合うと、セリコさんの買い手すべてに満足させて帰すという気配りによる価値を理解できた。二十五才までの思い出を書

いたが、学生時代に学んだことは役人にはたつが、社会人になつたらそれだけでは成長できない。本当に知らないこと、本当はこうだった、この方が良いかもしれない等を学ぶことが重要である。スタートラインに立ったということ

で、今後の経験と意欲に期待するものである。

林大生の皆さんに期待すること

株式会社ディーエルディー 代表取締役 三ツ井 陽一郎



私もDL&Dは、主に薪ス

トープを海外から輸入し、国内で販売、施工をしている会社です。その事業の中で燃料となる薪を生産、お客様に販売していることもあり、

昨年数名の林大生の皆さんを研修生として受け入れさせていただきました。そんなご縁で、今回「林大生の皆さんに期待すること」というテーマで原稿を書かせていただきました。

弊社では、間伐材を購入し一年間かけて乾燥させた薪を生産しています。その薪をご契約いただいている各家庭の専用トラックへ、定期的に巡回



2学年 木材加工学実習 (大町市・フジゲン(株)様)

して使用した分だけ補充し請求するという宅配サービスを実施しています。長野・山梨県全県、宮城県の一部で現在行っており、利用者の皆さんには大変好評です。また、薪ストーブの普及のネックとなつてくる薪の調達が難しくなったり、面倒くさかったりという要因を解消する事により、さらに薪ストーブの普及につながることを確信をしております。現在の生産数は年間およそ二十万束。約三千立米です。そして毎年七百五十立米ほどの増加を見込んでいます。今後も、今まで利用価値

のなかった間伐材を活用し、微力ながら林業への貢献に繋げていきたいと考えています。

林業の現状はなかなか厳しいと聞いています。林業においても大切な事は木製品を販売するビジネスであるということ

です。それは、魅力ある製品があつて初めて成立するものではないでしょうか？

例えば弊社建材部門ではスウェーデンや北米で生産された木材を扱っています。

大変美しい製品で、世界中で販売されています。

また近くのプレカット工場では、毎日数台のコンテナが

北欧から運び込まれています。このように多くの林業製品が輸入されている現状を変えて

いかなければ、発展は見込めないと思います。健全な森を作り、魅力ある日本製品を生み出し、国内のみでなくグローバルに展開できれば、状況は大きく変わると思います。

林大生の皆さん、ぜひ林業全体の大きな流れや必然を考

えながら、各専門分野の学業や業務に励んでください。皆さんの想像力と英知が必ず明日の林業を発展させていくと

信じています。



24・25期卒業生との交流会 (林大)

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

林業大学で一年学んで



1学年 石井 睦太郎

私がこの木曾の林業大学校で学び始めてから、もう一年がたちました。入学してすぐの頃は、「二年間もあるなんて、なんて長いんだ。」と思っ

ていましたが、気が付けば春が終わり、夏が過ぎ、秋を迎え、厳しい冬になり

一年が経ちました。この一年という時間は思っていたよりも早く時間が流れ

ましたが、その時間というのは私には多くの知識と経験、人々との出会いを与えて



1学年 柿板制作現場見学 (大桑村・栗山木工(有様))

くれました。今この一年を思い返すと、いろいろな思いが浮かんできます。右も左も分からない土地にやってきて、様々な生き方をしてきた今の友人たちと出会った春。八月の太陽に照らされて、ともに実習で汗を流した人生十八回目の夏。一つの季節の終わりを感しながら皆で燃え上がった寮祭の秋。

林大で感じたことから



1学年 大嶋 一輝

林大の入試の時、面接会場で先生方が五人並んでいてびっくりした。これが林大で一番古い記憶です。

この林業大学校では全寮制という特殊な形があります。この全寮制が私はとても不安だったのですが、部屋の先輩二人ともう一人の一年生はとても個性的で面白い人だったので、すぐになじむことができました。すごいと思ったのは、社会人経験者や大学に



1 学年 玉掛け技能講習 (林大)

一年が経とうとしていいる。その間僕は色々なことをやった。初めてチェーンソーで木を切ったり、登山をしたり、スノーボードをしたり、肋骨にヒビが入ったり、鼻が折れたり、日常的にダブル四の字固めをくわたり、三角締めをかけられたり、相撲をとって投げられたり、雪

行っていた人が林大にきているということ。この学校は、社会人や他の大学から見ても魅力のある学校なのだと感じました。
入学式が終わったと思ったら、次の日には裏山を登り、さらに体育では三キロ走ってタイムを計りました。その後四月下旬には屋久島研修でした。この行事で感じたことは体力が必要だということです。さらに林大では全体でお祭りや駅伝大会への参加など地域の行事にとっても多く参加して、地元をとっても大切にしているのだと感じました。



1 学年 城 里史

オッスおら二十?歳

オッスおら二十?歳、生徒の中では一番年上である。この学校が始まってから早々と

最後に、私は約一年間この林業大学に通わせていただいています。とてもいい経験ができていいると感じています。

この一年を糧に



1 学年 根岸 雅実

夢と希望にあふれ、林業大を学校を目指した高校時代から一年が経った。そして、自然あふれる木曾の地で過ごす一年が終わりを迎えようとして

の中に突き倒されたり、体育の時ボールをぶつけられたり...ここだけ読んでみると、まるでひどいイジメを受けているようだがそんなことはない。学校で過ごす日々は楽しく、目新しいものばかりで毎日退屈することはない、だからそこそこの日々があつという間に過ぎてしまうのだろう、決して年のせいではないと思いたい。あつという間に過ぎてしまう日々を認識しているなら、それを大事にしないでいいなら、心から思う。先輩方、卒業しても頑張ってください!そして一年生は来期も頑張ってください!!

いる。この一年を振り返ってみると、ユニークな友人やユーモアのある先輩方、林業のプロフェッショナルである先生方に恵まれながら、充実して林業の専門分野を総合的に学ぶことができた。また、進路に向けて自分のやるべきことは何かと考える、四年目である「全国造園デザインコンクール」に臨むことができた。林業とは少し離れるが、将来の目標である造園職に、また一歩近づけることができた。

来年度からは女子の人数も増え、更に学校生活が充実することを期待している。春休みには、企業へインターンシップに行く計画も立てることができたので、進路実現に向けて自ら積極的に行動しようと思う。

あと一年、友人達と支え合いながら思い出に残る林業大の学校での日々を送りたい。

まだまだこれから



1 学年 横川 覚志

普通高校出身である私は、実習やほとんどの講義が初めての経験でした。しかし一年二十人であることや、寮が四人一部屋という特別な環境であるため、友人や先輩の助けを受け、いままでも楽しく学校生活を送ることが



1 学年 木曾福島の歴史探訪 (木曾町)



2学年 保健休養学実習 (県林業総合センター)

きました。
この一年は予想以上に月日が流れていくのが早く感じましたが、この一年を振り返ってみると、屋久島での研修や、御嶽山に登り実習を行うなど多くの経験をしました。二年次もあつという間に過ぎていくと思いますが、オーストリアでの研修をはじめ、新たな知識を得ることができ、経験を活かして、就職や進学という大きな試練を乗り越えたいと思います。しかし、この林大での生活が私にとって最後の学生生活になってしまいかもしれないので、一日一日を大切に学校生活を

きでいけるからである。こんなこと言うところ。鬱みたいと思われられるかもしれないが、自分は割と真剣に木になりたいて思っていた。しかし長野県林業大学校に入ってから林業を学んでわかったのだが、木もいろいろ考えて生きていく。ここで悟ったのだが、地球上のありとあらゆる生物たちは、いろいろ考えて生きていて、自分だけが考えず

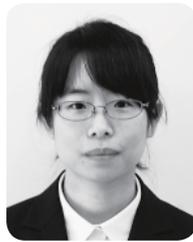


2学年 小椋 球

生まれかわるなら木

送っていきたいと思います。まだまだこれから勉強も遊びも楽しんでいきたいと思えます。

卒業を前に振り返って



2学年 小島 未帆

に生きていくのは無理である。この三月でこの長野県林業大学校を卒業する。これから社会に出て生きていくのだが、生きるというのは考えると同じことであると思う。僕は今まで考えることから避けて生きていたが、自分の将来や進むべき未来に向けて、主体性をもって残り少ない林大での生活を過ごしたい。

担任には「学生のうちに出来ることをしなさい」とよく言われた。例えば自主的にインターンへ行く、本を多く読む等がある。会社に勤めるとまとまった時間は取りにくく、また学生だから聞ける話が多くあるそうだ。実際、インターン先では裏の話を聞くこともあり参考になった。時に、不安に足がすくむことがあった。将来の道が定まらず、動きが止まってしまつ

たとき、背中を押してくれたのは母の言葉だった。「打開策はただひとつ。自ら動いて道を作ること！」遠く離れていても家族の支えは強いと感じた。



2学年 森林計画・普及論実習 (伊那市長谷・保科様山林)

二年間は瞬く間に過ぎていく。惰性でも毎日でも過ごし、全力ポロポロになって寮に帰ってきててもよし。寮には美味しい食事と寝床と風呂と友人が待っている。だったら私は断然後者をお勧めする。何故なら全力ポロポロの方が楽しいからだ。「一生懸命」で得たモノは自身の善きパートナーとなる。

ての人は、肝に銘じておいてほしい。

自然と見えてきた進路



2学年 中嶋 航汰

寮で生活をして思ったのは、他人の存在が大きいということだ。そこで大切になったのがマナーである。マナーは自分自身を高めるとともに、相手への気遣いにもなつた。寮は自分の家ではない。「共同の」家だ。寮を使う全

入学した当初は「就職先とあったら？」と考えても、どのような職があるのかさえ分からなかった。何となく授業を受け、何となく自分に合う

分野から進路を探し、何となく就職するものだと思うたからだ。何となく日常を過ごす中で、突如現れたマイカー。それからは取り付かれたように、休日には県内外に遠出をする生活を送っていた。多くの費用と時間を費やしたが、それに見合う経験と知識を得た。気づいた頃には、自分の趣味の欄に「ドライブ」がプラスされていた。そんな中で進路を決めるときに「自分には体力がないので現場作業員は向いていないのではないか？」と思い始める。しかし林業の現場に関わっていたい。そんなジレンマを抱える中で、ひとつの目標が見えてきた。どの現場に見学に行っても必ず目にした運材業者、それが後の就職先である。

授業の中で知識と技術を身に着け、現場作業員を職とするのもよいが、ほんの少し視点をずらせば、また違った現場を見ることが出来る。授業の中だけで進路を決める前

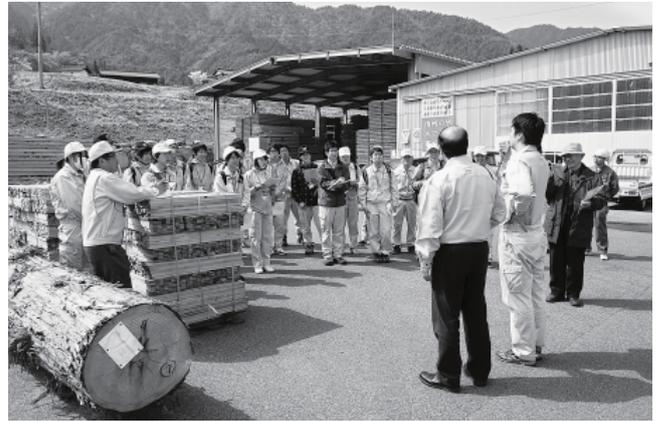


2 学年 森谷 周平

春の夢

に、他のところにも自分合った居場所がないかを探してみるのもいいと思う。

柔らかい雪の上をひとり歩いてきた。足下で結晶が崩れる音、頭上から雫が降り注ぐ音、となりで無数の生き物が



2 学年 木材商業論実習 (南木曾町・(株)勝野木材様)

息をしているというのに、私の中に音はなかった。けれど先ほど抜けてきた真つ白な原っぱの、俯くことさえ許さない眩しさに、嫌気がさしていた私にとって、静寂はありたいものだった。そんな風に思ってしまう自分に、一抹のバツの悪さを感じつつも、私は小気味よく歩を進めた。私がココにいるのに大した理由はなかった。かと言って気まぐれという訳でもなく、強いて言うなら些細な日々の欠片が折り重なって、今に至ったのだ。私は自分が道を違ったことに後で気づいた。故に迷っているのだ。戻ることのできない道を振り返る、私は達成感と恐れを感じている。



2 学年 そば打ち実習 (木曾町・ふるさと体験館)

四月からは新たなスタートを切るの

で、芯の通った社会人であるよう励みたいと思います。

光陰矢の如し



2 学年 米山 雄樹

林大でのこの二年間は本当にあつという間で、気付けばもう学生生活は終わろうとしています。思い返すと楽しい出来事ばかりでなく辛い時期や後悔もありますが、全て含めて感慨深い林大生活でした。

た。一学年最初のイベントである屋久島研修は風邪をひきギリギリ参加。二学年最後のイベントである保健休養学の信大キャンパスは体調を崩して不参加。自己管理の至らなさを思い知った二年間であったと痛感しています。また、この二年間で油物に非常に弱くなり一気に老け込んだ気もします。

しかし、全寮制という環境の中で生活は賑やかで、入学当初に抱えていた不安などすぐ忘れてしまえるほどに充実した日々を送ることができました。というのも、学校へ送り出し、支えてくれた家族や指導してくださった諸先生方、そして何より林大の皆がいたからこそで、本当に感謝しています。

保護者の
ページ

絵

の

一

言

木の生命とDNA

榎本 浩二



林大、そして木曾の地：

娘の人生にとつて素敵な出会いであると思います。また先生方や周りの方々のあたたかい関わり、そして素敵な仲間たちによって娘はほんとうにかげがえのない時間を過ごしています。たまの帰宅で娘から出る言葉は「ほんと、ええとこに入学ができたわ。むっちゃ楽しいで。それに木曾の自然は、ほんまええねん。落ち着くわ。」と林大生活と木曾での生活を満喫しているのが充分に分かります。

例えば、娘が高校三年生のときに樹木医に興味を持ち、聞き書き甲子園で里山のことを深く知るようになり、進路

の舵を林業へとることになりました。そのことに私は不思議な縁を感じています。私の実家は木材関係の仕事で営み、材木とおが屑の中で育ちました。また妻も木が好きで、大きな木を見ると、とてもうれしそうに触りに行くのです。そんな私たちの娘が林業に興味を持ち、学んでいるのですから。

木の生命と素敵なDNAさん、そして先生方、周りの方々、仲間に感謝でいっぱいです。ありがとうございます。



木曾生活

齋藤 妙子



今朝全国で最低気温「開田高原」とTVで放送され、木曾がいかに寒い地であるか知りました。一年程前NHKのTVで木曾が放送され、息子と共にこれから住むであろうかの地を見ていました。画面に映る風景は当然のごとく山、山で生まれ育った上越よりも更に田舎の寂しい色の風景ばかりでした。

そして先頃、TVで再放送され帰省した息子と見ていたのですが映る風景を見て

「ここはあそこだ！この先はね…」
「この風景はあそこから撮ったものだ！」
もうすっかり木曾の

登山部 雨中の昼食 (上松町・風越山)

人間です。

話を聞く限りでは、木曾での生活は決して便がいいとは言えない様ですが、その分「人」に恵まれ、不便ながらも楽しく過ごしている様で安心しております。林大生活もあと一年。今目の前にある目標に向け、決してあきらめる事なく努力してほしいです。

山しかない

木曾の地で…

根井 淳智



早いもので息子が入学してから一年が過ぎようとしています。入寮時に荷物を持って伺った時、元気に挨拶をして手伝ってくれた先輩達をとて印象良く思いました。寮生活をしつかりやっていけるか

と多少不安もありましたが、先輩達を見ただけで大丈夫だろうと安心致しました。

林業を学ぶという前に、全寮制という団体生活は今しか出来ない結構貴重な経験と私は思います。楽しい事がある中で、時には我慢が必要だったり人を思いやる気持ちが必要だったり。そういった経験を積んで立派な大人になつてもらいたいです。

将来、林業に携わる仕事につくと思いますが、相手は自然です。素晴らしい事はたくさんありますが、人間の力ではどうする事も出来ない恐ろしい面もあります。限られた



1学年 狩猟(くくりわな)講習(実習棟)

この時間を大切に、知識、技能をしっかりと自分に埋め込んで下さい。

自然と林大に感謝

古田 勝



周囲を山々に囲まれた木曾の地で生まれ育ち、中学の時の林業体験がきっかけで木曾



1 学年 林業機械学実習 (実習棟)

使つての作業もした事があります。が、山中での作業は危険と隣り合わせで大変だと実感しています。林大生活もあと一年です。良く学び良く遊び学生生活を楽しんで、林大で得た知識・経験を元に、自分の目標に向かって前進していつてくれる事を期待しています。

夢に向かって

渡澤 喜浩



早いもので、林業大学校に入学して、一年が過ぎようとしています。初めて、親元を離れての寮生活なので、やっていけるか不安で送り出したものでした。

入学して間もなくの屋久島研修、夏の御嶽登山、また県内各地での研修、駅伝大会への出場など各種イベントへの参加、アルバイト等日々忙しく貴重な体験をしているように感じています。

あと一年で卒業となりますが、海外研修など貴重な体験学習を通して、自分の夢に向かって一步一步進み残りの学生生活をエンジョイしてほしいものです。また、苦楽を共にした仲間と過ごした時は、一生の宝物となることでしよう。



トレーニング部 料理教室 (木曾町)

成長したことを心から喜び、関係者の皆さまに感謝しています。

寮生活によって仲間とコミュニケーションを深め、授業においては、講義だけでなく様々な実習・研修を経験することができ、息子にとつて大変有意義かつ濃厚な二年間でした。林業先進国であるオーストラリアへの視察研修企画は、正直なところ私も一緒に同行させていただきたいような魅力的な内容であり、この研修を経験できたことは、学生たちの一生の宝になるでしょう。

一人前になることが恩返し

内山 和夫



林業大学校に入学してあっという間に二年間が経過し、間もなく卒業。生物と農林業に興味を持っていた息子に林大を紹介し入学を薦めたのは私ですが、息子が林大で学び

この二年間は、木曾福島地域の皆さんや寮や大学関係者の皆さまの支えがあつての学生生活でした。「一人前」になることが何よりの恩返し。感謝の気持ちを持ち続けると同時に、寮生活で培った人間関係の大切さ、とりわけ「笑顔」を大切に社会人としての一歩を踏み出してもらいたいと思います。



2学年 木材利用コース実習
(岐阜県立森林文化アカデミー)

頑張っ
て、念願
叶って入
学する事
が出来ま
した。こ
の林大
では、高
校では
は少な
かった
実習も
多く、
本人の
もつと
経験を
積みた
いとい
う希望
も達成
し、満
足のい
く学校
生活を送
る事も
出来ま
した。早
いもの
で、もう
二年



林業と息子
蒲原 寿子

息子の周囲には、林業関係者
は誰もいません。高校受験
では将来を考えてか、林業科
のある高校を自ら選択し、入
学しました。入学直後から長
野林大へ進学する事を目標に

目も終わろうとしていま
す。林大に出会え、先生方や友
人、大自然に恵まれとても感
謝しています。
この経験を生かし、林業を
担う一人として貢献してい
てほしいと思います。また好
きな事、やりたい事をこのよ
うな良い環境でやれる事は幸
せだと思えます。そして林業
での若者が、これからも増え
る事を期待したいと思いま
す。長野の魅力に誘われ、四
月からも引き続き長野で働か
せていただきます。長野の人
ともっと仲良くさせていた
だきたいと思えます。

皆様
に感謝

武田 京子



林大より合格通知を頂き、
ホッと胸を撫で下ろしたと同
時に、家大好きっ子娘が遠く

離れた木曽の町で、果たして
大丈夫なのか、と心配でもあ
りました。実紗も不安だらけ
のことだったでしょう。しか
し、帰省のたびに、林大での
楽しい日々を話し、また、少
しずつ大人に成長していく娘
を見て、安心しておりまし
た。あれから二年、月日の経
つのは早いもので、もう卒業
となります。社会人となり、
これからの社会の中心になる
ということを抱き、また
人生で最も可能性に満ちあふ

気持ちで過ごしてくだ
さい。

息子よ、
未来に羽ばたけ

横山 正芳



もうすぐ卒業ですね。長い
ようで短かったのかなあ二年
間。林大の先輩や先生、周り
の方々にお世話になりなが
ら、山形の地を離れて過ごし
たのではないでしょうが？感
謝の気持ちが大事です。残り
わずかな林大の生活を感謝の

今年からは、社会人
ですね。全てが順風満
帆には行きません。躓
く時もあるはず。その
時は、林大で学んだこ
とを糧に乗り越えるん
だぞ。お父さんは、人
生の先輩でもあるので
遠慮なく相談してね。
参考になると思うよ。
お前が、二十歳に
なった時二人でお酒を
飲みに行きましたね。
就職のこととかいつば
い話せて楽しかった
なあ。また飲みに行こ
うぜ。

れている時期です。広い視野
と強い信念を持つて未来を切
り開いてほしいと願います。
これまでお世話になりました
先生方、寮母さん、そして苦
楽を共に乗り越えて来られた
生徒の皆様、実紗を支えてく
ださり心から感謝申し上げます。
長野県内に就職すること
となり、これからも何かの折
には林大に立ち寄ることもあ
ると思えますので、今後とも
宜しくお願い致します。



2学年 森林資源活用コース実習
(木曽町・古幡和久様山林)

林大の思い出と 林業の 遷り変わりなど



長野県林務部
信州の木振興課
三石 和久
(第3期生)

私は、今年の誕生日で五十二歳です。朝六時起床で、ラジオ体操をした林大の寮生活は、昨日の様に思い出されま



授 安里
教 吉野

お金のゆくえ

スーパーマーケットにてたとえば、スーパーマーケットに野菜を買いに行くとき、外国産、国産と並んで支払います。品物を買えば、どこへ行くのか？外国産を買おうと、流通マーキングを引いて、お金は外国へ出て行きま

すが、本当に月日は早いと思います。

突然ですが、私の林大思い出ベスト3。第三位、「歓迎会」？入学して間もない頃、寮の談話室で三期生全員が正座させられ、先輩全員から指導（焼き？）を受けたこと。（Y山先輩は、本当に怖かったなあ。その風貌は、更に磨きがかかり、今、林野庁で活躍中）。第二位、「全国育樹祭」。皇太子殿下と同妃殿

檜の アド バイス

下の前で、枝打ちの実演を林大生が実施。私は唯一、皇太子殿下とお話することが出来ました。（H二十八年全国植樹祭を長野県で開催しますが、皇室との運命的な出会いを感じます（笑）。第一位、「ゴマおにぎり」。夜八時には必ず、夕飯の残りで寮母さんがゴマおにぎりを作ってくれたこと。（忘れられない味（涙））

こんな思い出の中、あの当時の林業の情勢は、「来るべき国産材時代」を合言葉に、未熟な森林の手入れ（保育間伐）が喫緊の課題でした。そして、林大を卒業して県職員となつて三十一年間、私の仕事も、大半は、健全な森林造りのための間伐の推進でありました。

近年、こうして育てられてきた森林が成熟期を迎えつつあり、更に、国内における国産材利用の増加や、木材のバイオマスエネルギーへの活用を促進等、森林は

す。国産ならば、最終的には、国内生産者へお金が流れます。小さな買い物かもしれないが、この違いはとても大きい。国内生産者へお金が流れることは、生産者の生計を支え、地域の雇用を生み出し、それが地域の経済を循環させることになるからです。

なぜこんな話をするかという、林業も同じだからです。木を植えて、育てるだけでは、山元の収入はゼロです。業（なりわい）とはいえない。伐採し、木材を売り、そのお金が山元に還流されて、

はじめて林業と言えるわけですね。ゆえに外国産ではなく、国産の木材を使つてもらふことは、山村振興にとつて極めて重要な意味を持ちます。

オーストリアで考えたこと

チロル地方にフィスという村があります。人口は千人に満たず、近隣の二つの村を合わせても三千人ほどです。約五十年前に自分たちで出資して会社を興し、スキー場を始めます。農家民泊は自分たちで経営し、少々高くても地元

の農産物を使います。こうし

て観光と農林業とを両立させ、雇用を創出し、若者も定着しました。すなわち、観光で稼いだお金を村内で循環するような仕組みを作りました。かつての寒村は、三つの村で一五〇万人のお客を受け入れるリゾート地に発展しました。

育てる時代から、利用する時代へ！林業も次のステージへ入ったと思います。

昨年九月、オーストリアで林業を勉強する機会がありました。オーストリア林業は、これからの日本の林業を予見する素晴らしいものでした。県職員生活も残り九年。好奇心旺盛に、これからも、いろんなことに挑戦してまいります。林大生の皆さん、長野県を森林県から林業県へ！健全な森林が持続的に続くよう一緒に頑張りましょう。

「お金のゆくえにこだわるとは思いませんか。

「稼いだお金を、外へ流出させず、自分たちの地域内で循環させる」。ここに山村の振興の力があると思いませんか。林業を目指す皆さんは、普段の買い物でも値段以上に産地にこだわってください。「お金のゆくえ」に敏感であること、山村振興は始まること、お金のゆくえにこだわるとは思いませんか。

我 ら 林 大 生 !

第34回 卒業式



木望祭
(こけ玉作り)



ランチタイム・
ラーニング
(講師控室)

長野県観光PRキャラクター
「アルクマ」来校 (林大)



今年、木曾の地でも二月になってから二度の大雪が降った。二度目の大雪のときであるが、金曜日に自宅へ帰った後に国道十九号が全面通行止めとなり、木曾には立ち入れない状態となった。給食がない休日に、学生たちが満足に食事も摂れないのではと気をもみながら、土曜日の朝、木曾町内に住む職員に学校の様子を見に行ってもらった。すると、学校にある小型バックホウを使い、学生たちが自主的に駐車場などの雪かきをしたので、町まで買い出しなどにも行ける状況になっている、とのこと。安堵するとともに、彼らが自主的に作業をしてくれたことに胸が熱くなった。このとき在寮していた学生たちは、それぞれが何かしなくてはいけないと心の中で考えていたことと思う。でも、思案するだけでなく、実際に行動に移してくれたことが何よりうれしかった。仲間のため、地域のため、社会のために何ができるかを考え、それを実際の行動に移す。学生にはそんな社会人になってほしいと願っている。

(M)

編集後記